

玄界島震災復興記録誌

第1章

玄界島の 概要

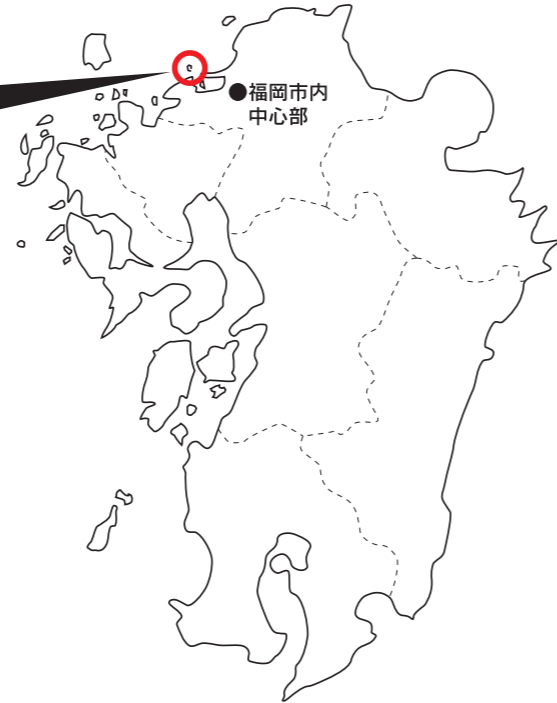
1 地勢

玄界島は、福岡市内中心部から北西約20km沖に位置し、博多湾の入り口に浮かぶ、周囲4.4km、面積1.14km²の島である。標高218mの遠見山を中心にお椀を伏せたような形をしている。

玄海国定公園区域内にあり、海に囲まれ山がそびえる島には自然があふれている。島からは弓状の博多湾を一望できる。



震災前の玄界島



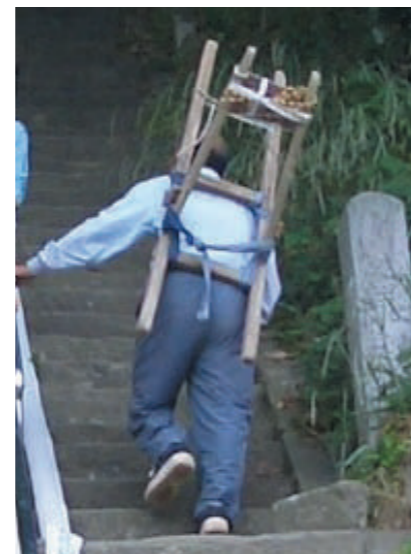
2 集落

島のほとんどは斜面地で、漁港埋め立て地以外に平坦な土地はない。島の南端に漁港や公共施設が集中している。

震災前、その背後の斜面地と限られた平地に、民家が密集していた。斜面地の集落は、曲がりくねった狭隘な道路や「がんぎ段」と呼ばれる石段に囲まれ、石積の擁壁の上に住宅が寄り添っていた。斜面地に車の通れる道路はなく、荷物運びのほとんどは背負子(しよいこ)か、荷物運搬用モノレールで行っていた。



がんぎ段と石積み擁壁



背負子(しよいこ)

3 人口

人口は、昭和36年から60年まで、約1000人で推移してきたが、ここ20年で約300人減少した。特に、近年若年人口が急減しており、人口の減少や少子高齢化が進むことが予想される。

震災前(平成17年2月28日現在)の人口は、232世帯、700人であったが、復興後(平成20年2月29日現在)、222世帯、571人に減少した。(住民基本台帳)

4 生活環境

上水および電力は、最寄りの糸島半島から海底配管および海底ケーブルにより供給されている。

下水は、平成13年度に漁業集落排水が整備され、污水处理施設が供用開始された。

ごみ処理については、可燃ごみは島内焼却場で処理を行い、不燃物や粗大ごみは本土に運搬し処理を行っている。

ガスはLPガスを島外から搬入し、集中配管し供給している。

5 教育・保育

子ども達は、島に一校ずつある保育所、小学校、中学校で育ち、高校からは島外の学校に通っている。

震災前(平成17年3月22日現在)、保育園児25名、小学生35名、中学生13名であった生徒数は、復興後(平成20年3月1日現在)、保育園児16名、小学生19名、中学生13名に減少した。

平成21年春には、集落部に近い小学校用地に小・中学校が併設した新校舎が開校する。

6 医療機関

平成8年に市立診療所が移転整備され、医師・看護師が常駐し、週に6日診療している。併設された歯科では、週に3日医師が渡航し診療を行っている。

7 産業

島の主産業は漁業であり、島民の大半は漁業従事者である。一本釣り漁業、延縄漁業などの漁船漁業が中心であり、福岡市の重要な漁業拠点の一つとして、福岡市民の暮らしを支えているが、近年、漁業就業者、水揚げともに減少している。

8 交通

島へは、市内中心部にある博多港から市営渡船に乗って、35分で到着する。1日に往復7便が運航している。

9 島の沿革

1989年(明治22年) 志摩郡小田村の一部となる

1986年(明治29年) 糸島郡に編入する

” 北崎村に改称する

1961年(昭和36年) 福岡市に編入する

1972年(昭和47年) 福岡市西区に属する